

事 務 記 録

議 題	令和5年度第1回三条市公立大学法人評価委員会		
日 時	令和5年7月21日(金) 午後3時～午後4時25分	場 所	三条市立大学 ミーティングルーム3
出席者	<p>評価委員：和田 裕 委員長、清水 善廣 委員、勝見 悦行 委員、 清水 希容子 委員、山口 隆司 委員</p> <p>説 明 員：公立大学法人三条市立大学 アハメド シャハリアル理事長、 今井事務局長、平野ディビジョンマネージャー、 杉崎ユニットリーダー、山本ユニットリーダー、 小林ユニットリーダー</p> <p>事 務 局：本間総務部長、小林行政課長、西澤課長補佐、 星野行政課庶務係長</p>		
概 要	<p>次第1 開会 本間総務部長挨拶 大学、三条市側出席者の紹介</p> <p>次第2 評価方法について 事務局（小林行政課長）から説明</p> <p>次第3 令和4年度業務実績報告書について （シャハリアル理事長）私から概要について説明した後、事務局長から報告書について説明させていただく。</p> <p>開学2年目となった令和4年度は、開学初年度に引き続き、大学運営を軌道に乗せるため、文部科学省からの大学設置認可の内容を確実に実施する必要があることから、その点を十分に配慮しながら、着実に法人運営を行ってきた。</p> <p>教育に関しては、ほぼ予定した教育課程どおりに教育を実施してきた。特に、令和4年度から開始された産学連携実習については、認可時点で93社であった協力企業数は、令和3年度には121社、令和4年度には139社と、協力企業を着実に増やすことができ、学生の受入人数枠として余裕をもって確保することが実現でき、充実した実習環境が整えられ、成果が上がっているものと捉えている。</p> <p>研究に関しては、全専任教員が就任していない状況ではあったが、学会への報告件数及び論文・著書数は、令和3年度と比較すると倍増している。また、各種助成金などの外部資金を多く獲得するなど、積極的に研究にも取り組んでおり、成果を上げている状況である。</p> <p>地域貢献に関しては、地域連携キャリアセンターを中心として、地域企業との連携体制を引き続き構築している。</p> <p>地域の小中学生や、各種団体の非常に多くの方々から施設見学をいただき、本学の取組についても御理解いただくことができたと考えて</p>		

いる。さらに、三条商工会議所と連携したセミナーや、小学生や中学生向けの大学開放イベントなどを多数開催し、多くの市民等から参加いただくなど、成果を上げている。

業務運営に関しては、入学者の確保に向けて各種周知・広報活動のほか、全国の高校を訪問するなど、志願者数の増加に向けた取組に注力した結果、一般選抜試験では、前期・中期日程合計で、9.2倍となり、その結果今年度の入学者数も定員を上回る86名を確保することができた。

また、本学の運営方針や教員の研究内容などに御理解をいただいた企業等からも多くの資金提供の申出があり、御寄附いただいた。

このように、令和4年度については、順調かつ概ね計画どおりの成果が上がったのではないかと考えているところである。

私からの概要の説明は以上とし、続いて事務局長から説明をさせていただきます。

(今井事務局長) 業務の実績に関する報告書に基づき説明させていただきます。

1 ページ、全体の自己評価の結果について、評価は3段階で実施しており、A評価は目標以上の成果につながったもの、B評価は概ね目標どおりの成果、C評価は目標に達しなかったもの、で評価を行った。

令和4年度は評価項目が81項目、うちA評価が9項目、B評価が71項目、C評価が1項目である。

A評価とC評価の項目を中心に説明する。

2 ページ、1、教育に関する目標を達成するための措置について、(1)、専門教育の充実、ア、複合的な領域の教育の一番上の行、年度計画では履修モデル、カリキュラムマップを参考に、各科目の連続性を考慮しながら教育を行うとしていた。実績は、文部科学省から認可を受けたカリキュラムを着実に実施したほか、関連科目間の過不足や連続性の有無などを確認し、シラバスを見直したところであり、B評価とした。また、一番下の行、産学連携実習を通じて現場で学習を行うという計画に対し、令和4年度初めて産学連携実習を実施したが、当初の計画どおり確実に実施できたことからB評価とした。

ウ、時代の変化への柔軟な対応では、一番上の行、外部有識者や外部団体へのヒアリング、訪問等を通じて情報収集を行い、教育課程や学術研究への反映方法を検討するとの計画に対し、他大学への訪問や地元企業、団体等との意見交換を通じて情報収集を行い、教育課程の見直しの参考に活用するなどしたためB評価とした。

3 ページの(2)、入学者の確保について、3行目、令和4年度の計画ではホームページと大学案内について、本学の特長を理解しやすい構成及びコンテンツにリニューアルするについて、主な実績としては、広報を担当する専属チームを配置し、ホームページ及び大学案内の大幅な見直しを行うことで、デザイン等の統一化を図り本学の魅力が伝

わるようリニューアルを行ったことで、志願者数が前年度比較し81パーセント増加し定員以上の入学者を確保できたことからA評価とした。

4行目、SNSでの効果的な情報発信方法を検討・実施するという計画に対し、運用方針を定めて情報発信することによりフォロワー数が28パーセント増加したことからA評価とした。

4ページの(3)、学生支援について、一番上の行、学生に対して相談体制を整え運用するについて、実績ではオフィスアワー制度を導入し相談体制を構築・実施したほか、カウンセラーによる相談等も行っており、B評価とした。

4行下、年度計画では、開学後初の大学祭の実施を支援するとしていたが、実績としては大学祭の経験がない学生に対し、教職員も新設大学での大学祭という不慣れな状況であったが、滞りなく実施でき、多数の来場もあり、かつ市内外に学生の活動が知られるきっかけとなったほか地元企業・団体とのつながりを深めることができたことと捉えA評価とした。

(4)、社会人教育の充実について、一番上の行の知的ものづくりセミナーの継続及び外部専門家を招いた特別セミナーの開催との計画に対し、参加者も確保しながら着実に実施しておりB評価とした。

5ページの2、研究に関する目標を達成するための措置、(1)、地域発展に資する研究の推進について、競争的研究費を使用できる制度を検討し研究活動の活性化を図るという目標に対し、本学と企業とのリソースについてのマッチングを行うために必要な調査を行った。

(2)、地域企業等と連携した研究の実施について、下から2行目、教員が企業を訪問し企業のニーズを調査する計画に対し、実績では教員が産学連携実習等で企業を訪問した際に企業ニーズの把握に努め、大学と教員の持つシーズの発展可能性を検討しており、B評価とした。

(3)、外部資金の獲得について、計画では外部資金獲得に向けて申請に必要な支援を行うことを掲げていたが、実績では研究支援ポータルを構築し情報発信を確実に行うことで、前年度より2倍に申請数が増加したことから、A評価とした。

6ページの3、地域貢献に関する目標を達成するための措置の(1)、地域企業との連携推進について、一番下の行、企業の依頼に基づき調査や技術支援を行う計画に対し、企業から相談に応じながら学術・技術支援3件、受託研究1件、共同研究2件の実績を上げておりB評価とした。

(2)、地域の学校等との連携活動の推進について、一番下の行、教職員や学生へ各種イベントの周知を行う計画に対し、実績では市内で行われた様々なイベントに数多くの参加があり、令和3年度と比較し約倍増する実績を上げたことからA評価とした。

7ページの4、国際交流に関する目標を達成するための措置の(1)、

留学生等の受入れでは、留学生受入体制の調査研究を行う計画に対し、適宜情報収集、調査研究を行っており、B評価とした。

業務運営の改善及び効率化に関する事項の1、運営体制の改善に関する目標を達成するための措置について、一番上の行のFD・SDを適切に実施し、教職員の資質・能力の向上を図る計画に対し、実績に記載のとおり取組を確実に進めたことからB評価とした。

8ページの3、人事の適正化に関する目標を達成するための措置の一番上の行、年度計画では教職員の評価制度を構築し運用するとしていたが、実績として教員については活動表彰制度を創設し運用を開始したが、職員については構築に至らなかったためC評価とした。

4、事務の効率化及び合理化に関する目標を達成するための措置の一番下、各種事務を適切に執行するため、マニュアル等を整備するとの計画に対し、マニュアルや手順書の作成、更新などを進め事務の効率化とともに確実な実施をしておりB評価とした。

9ページの財務内容の改善に関する事項の1、自己収入の確保に関する目標を達成するための措置、(1)、学生納付金の確保について、再掲になるが、3行目、4行目はホームページ等のリニューアルとSNSでの情報発信の計画であり、先ほど説明した実績によりA評価とした。

(2)、外部研究資金等の獲得促進の一番上は再掲であり、先ほどの説明のとおりA評価とした。一番下の寄附金の獲得に努めるとの計画に対し、実績では本学の教育に対し理解いただき、新たに8件の寄附をいただいたことからA評価とした。

以下、自己点検、評価及び情報公開の推進に関する事項、その他業務運営に関する事項の年度計画に対する評価を記載したが、いずれもおおむね目標どおりに実施できたと捉えており、B評価とした。

12ページ、中期計画に掲げた成果指標に対する現在の達成状況を記載した表で、達成年度が最終年度や完成年度以降の項目については網掛けをした。それ以外の項目は、中期計画で掲げた目標値を上回っている状況である。

(和田委員長) ただいまの大学側の説明に対する質問がある方は挙手を願う。

(勝見委員) 市長が奨学金が4人に1人と言っていたが、三条市立大学は他の大学に比べて奨学金をもらっている割合は高いのか。

(今井事務局長) 他の大学の奨学金の状況を調べたことがないので比較できないが、1学年当たり4人に1人が給付型の奨学金を受けられるということは比較的高い割合だと捉えている。

(清水(希)委員) 12ページの網掛けの見方が分からない。

(今井事務局長) 右側の達成年度に“完成年度”と記載のある項目は設立後4年を経過した時なので、今回の評価には値しないということで網掛けにしてある。

(清水(希)委員) いつからになるのか。

(今井事務局長) 令和6年度が終了したときである。評価するのは令和7年度となる。

(清水(希)委員) 説明にあった、学術・技術支援3件、受託研究1件、共同研究2件、また、学長裁量の特別研究という話があったが、具体的な内容が知りたい。

(今井事務局長) 内容の詳細についての回答は難しい。

(シャハリアル理事長) 企業との共同研究で、企業が持っている顧客の声を分析するデータマイニング研究が1件、地元企業との共同研究の中で技術研究に関するもの（既存の技術を開発することに繋がるもの）が2件、日本に進出している海外企業に向けてのコンサルティングの研究が3件。そこにはマーケティングの部分と人的支援の部分も含まれている。

(清水(善)委員) ホームページとSNSでの情報発信はかなり効果が出ているという評価だが、具体的にどのように実施したのか。また、昨年度はA評価であったリレー形式のセミナーがなくなって、それに対応する項目がA評価でなくB評価になっているが、リレー形式のセミナーはどうなったのか。それから、教職員の評価制度の構築はC評価と厳しい評価となっているが、初年度から変わっていないということでB評価でもいいのかなと思うが、なぜC評価としたのか。何か意気込みがあるのか。それから、清水(希)委員もおっしゃったが、受託研究や共同研究は数として出ているのになぜA評価ではなくB評価なのか聞きたい。

(シャハリアル理事長) 我々の想定を上回った場合にA評価としており、目標どおりの場合にはB評価としている。B評価だから低いとは思っていない。

(清水(善)委員) B評価は私も同じ認識だが、C評価の理由が知りたい。

(シャハリアル理事長) C評価とした8ページの教職員の評価制度については、教員と職員それぞれの人事評価制度を導入するとしていて、職員の人事評価制度は大学独自のものができていないためC評価とした。約束では作ることとしていたがまだできていないためである。

(清水(善)委員) 受託研究や共同研究はまだ足りなくてB評価ということで理解した。

(シャハリアル理事長) 受託研究、共同研究も私たちが想定した範囲内であったため。この評価は昨年度のもので、大学はドラスティックに変化しているので、今現在で言えばもっと増えてはいる。学生募集については、私たちの大学は新しい大学で知名度も好感度もない、卒業生も出ていない中であらゆる手法を用いて学生確保の取組をしている。その中で何が一番効果的だったかは分からないが、ウェブサイトだけではなくと思う。地域を訪問し学生に直接大学の説明をする、ま

た、保護者や教員にも説明していることが志願者増につながったのではないか。また、マスコミに対し SNS を通じて情報発信している。評価には関係ないが、今の1年生は47都道府県から出願があり、私たちの大学も知られてきたと認識している。

(清水(善)委員) リレー形式のセミナーがなくなった理由は。

(シャハリアル理事長) イノベーションセミナーシリーズは新型コロナウイルスや雪の関係で中断しているがこれから再開する予定である。

(山口委員) 教員の定員は何人で現在19人なのか。

(シャハリアル理事長) 定員21人である。

(山口委員) 達成するようにしているのか、それとも出入りがあるためか。

(今井事務局長) 例えば3年時に初めて開始される教科の先生が3年目に着任するという計画があり、令和4年度時点では19人であった。

(山口委員) 職員は27人とあるが定員はあるか。

(シャハリアル理事長) 職員に定員はなく大学に任されている。

(山口委員) 職員の評価制度は策定の予定があるか。

(平野ディビジョンマネージャー) 職員の評価制度も作る予定はある。ただし、大学に関わらず職員の評価制度を策定するまでには一定の期間が必要になる。また、策定したものを仮運用することを考慮すると今年度又は来年度の策定になる可能性はある。昨年度達成できなかったのでC評価としたが、実務的に考えても職員のモチベーションを長期的に維持するためにも必ず必要になるものなので現在進めている。

本学のビジョンは開学当初から明確に定めているので、能力評価だけではなくビジョンに対するパフォーマンスとその結果が発揮されているのかという軸も含め評価制度を作っていきたい。

(山口委員) 教員のモチベーションを上げるために表彰したということだが、賞状だけか。最近は寄附金を取ってくるとサラリーになって戻ってくるということも多いが、そういったモチベーションを上げる制度があるといいと思うが。

(シャハリアル理事長) 金銭的なインセンティブも考えていないわけではないが、職員の評価制度が完成してから同時にインセンティブについて運用したいと思っている。

(山口委員) URA が重要と言われているが、URA を採用する予定はあるか。

(シャハリアル理事長) 今年度か来年度までには採用したいと考えている。

(山口委員) 企業と連携しているということだが、知的財産に関する記載が見当たらないが。

(シャハリアル理事長) 知的財産については今回の報告にはないが、初の案件が今ちょうど処理されており、おそらく再来年の報告に含まれる。

(山口委員) 企業との秘密保持についてはどうか。

(シャハリアル理事長) 大学としても学生一人一人としても企業と秘密保持の契約を結んでいる。また、契約にサインするだけでなく、倫理教育の一環で通常の習わしレベルの秘密保持と他言できない秘密保持とを分けている。昨年学生が企業に実習に行き、戻ってきた後に学生が行ったプレゼンテーションを我々が見た限り、学生は秘密保持を確実に守っている。言っはいけない内容はプレゼンテーションの中にも無かったので、概念が身に付いていると捉えている。

(清水(善)委員) 産学連携が特徴の大学なので秘密保持、守秘義務が一番気になるところである。

(シャハリアル理事長) 産学連携先企業は139社、今は140社になったが、その企業との教育に関する覚書及び秘密保持はある。またその中の幾つかの企業との間で技術開発などで新たな連携ができてきており、また別な秘密保持がある。

(清水(善)委員) それだけしっかりされているのであれば報告書に反映させれば大学の良さが出てくるのではないか。

(シャハリアル理事長) 今回の報告書の後の話をした。

(山口委員) 学則の第30条に学生が行う短期大学若しくは高等専門学校の専攻科における学修などの実績はあるか。今後希望者が出たときに整理していく考えはあるか。

(シャハリアル理事長) 現在こういう事態が生じていないのでオペレーションをどうしていくかは決めていない。

(山口委員) 大学間で単位交換できそうなのはあるか、とやり取りして学生がそこから選択するという仕組みを作ってやらないと学生は利用しない。せつかく学則に記述があるので検討してほしい。

(シャハリアル理事長) 検討する。

(山口委員) 学則第22条、23条に転入学、編入学の記述がある。中期計画の中で1人の目標があったのは留学生であったか。

(シャハリアル理事長) 留学生である。

(山口委員) 対象者はいそうか。

(シャハリアル理事長) 来年になるかもしれない。目標は達成したいと思っているが、現在留学生や転入生の受入について取り組んでいるところである。ただ、例えば高専などを卒業して大学に進む編入については、文部科学省では別枠扱いとしており、編入枠を設けたのに編入生がいなくて定員割れと見なされてしまう。長岡技術科学大学のように編入の流れがあれば定員割れにならないが。

(今井事務局長) 留学生を1人受け入れる目標は、中期目標の最終年度である令和8年度までに設定している。

(和田委員長) URAの話があったが、5ページの一番下の外部資金の獲得について、ポータルという話が出てきた。昨年学長がURAは来年導入しますと言われていたが、導入は延びるということか。

(シャハリアル理事長) 今年度中に導入する予定のため来年度の評価に含まれる。

(和田委員長) 企業実習を初めて実施したが、満足度や大変だったとか、学生の評価はどうか。

(シャハリアル理事長) 学生の満足度は私たちの想定以上に高かった。企業の満足度も想像以上に高かった。昨年11月に大学で報告会を実施したが、企業の方は我が子を見るように学生の発表を聞いていた。私も現場に出向いて企業の方の話を聞いたが、私たちが学生に教えたというよりも学生に教わったと言っていた。こうしたギブアンドテイクが産学連携なのかなと、当初の思惑どおりになったと思った。また、3社で実習して何が印象に残っているか学生に聞いたら、朝礼に出させてもらったことと言っていた。私たちの想定にないところでも影響を及ぼしているのかなと感じた。

(勝見委員) 企業は地元に残ってほしい。学生に来てほしいと思っている。

(和田委員長) 設立の目的にこの地域の後継者を育成する、若者に残ってほしいということが大きなテーマになっている。しかし現実を見ると三条市出身の学生は少ない。どうすればいいかと言うと、外から来た学生にこの地域に残りたいと思ってもらえることが目標を達成する大きな要因になる。そのキーになるのが産学連携実習だと思う。

それから、地元企業との連携について、数値として示してほしいと以前お話ししたが数値はそろっているか。

(シャハリアル理事長) そろっている。公開もしている。

(和田委員長) 承知した。それから、寄附金は合計でどれくらいあったのか。

(山本ユニットリーダー) 8件、2,300万円であった。

(和田委員長) 以前も話したが、外部評価機関をどこにするかは決まったか。

(シャハリアル理事長) まだである。

(和田委員長) 7年後なのでまだいいが、評価を受けるときにどういう項目を達成してきたか言わなければならないが、評価機関によって項目やウェイトも違うので、できれば早めに決めた方がいい。

(シャハリアル理事長) 来年度に専門の係を設置して調査をする仕組みを作りたい。

(和田委員長) 広報関係のまとめ役となるキーマンを配置したと言われたが、どのような方か。

(シャハリアル理事長) 教員か職員かで言うと職員の立場になるが、事務職員というよりは実務経験も学術経験もあるプロフェッショナルである。

(和田委員長) それは良いことである。

(勝見委員) 地元のマスコミにもよく大学が取り上げられているが、意

識的に発信しているのか。

(今井事務局長) 何かあるごとに情報を発信し取材していただいている。

(和田委員長) そういうことも評価に入れてもらったほうがいい。

(シャリアル理事長) 中期目標に掲げた項目以外は報告していないが、その他として入れてもいいかもしれない。

(和田委員長) 最後に、事務局職員の評価制度について、他大学の事例を調査し参考にした上でも策定は難しいか。

(平野ディビジョンマネージャー) 調査はしているが、本学は学長が独自というキーワードを使っているとおり、産学連携実習にしても同じ形態でやっている大学が少ない。当然それを推進する職員に求められる中身も他とは毛色が変わってくる。また評価について、先ほどモチベーションというキーワードがあったが、運用を意識しているので、細かい基準を作っても評価でモチベーションを上げるとなると、評価を受ける側にどう納得感を作り出すのが評価のキーワードだと思っているので、そういったところを算段しているのが現状である。

(和田委員長) 評価される側の意見も聞いた上で、納得したものを作ってほしい。また、モチベーションの話が出たが減点主義ではなく加点主義で作ってほしい。

他に質問はないか。

—なし—

—大学退席—

次第4 意見交換

(和田委員長) これから意見交換を行う。

評価の内容についての意見など発言していただきたい。

(勝見委員) 秘密保持契約について、三条・燕地域の企業は他には出せない技術が必ずある。理事長は個別に契約すると言われたがそういうものなのか。

(山口委員) 様式は通常個別にはなっていない。

(和田委員長) 勝見委員がおっしゃるのは、共同研究などに当たり企業秘密も出さなければいけないが、外部に漏れないための契約はあるのかということか。

(勝見委員) 企業独自の技術を学生に教えるのか。

(山口委員) 企業も大事なところは見せない。

(清水(善)委員) 民間と大学で共同研究する際に学生が手伝うので学生は知ってしまう。そのため守秘義務契約を結ぶことはよくある。

学長の話だと、そこはしっかりやっているということなのでそれはすごいと思う。

(山口委員) 4年生の実習だと気を使うと思う。翌年就職する方が多いのでその辺は気を付けているのでは。

事務局に確認したいが、完成年度の意味は。

(小林行政課長) 完成年度は4年生が卒業する年なので令和7年度に評価する。

(和田委員長) 先ほどの説明では中期計画が終了する年と言っていた。

(小林行政課長) 説明が違っていたと思う。

(和田委員長) 通常完成年度はカリキュラムを設定して4年間のカリキュラムを全うすることである。最終年度は中期目標の達成年度である。

(山口委員) 最終年度までに留学生を確保するとあるので、さっきの説明だと中期計画だがそうではないか。

(小林行政課長) 大学事務局に確認したら最終年度は中期計画の最終年度、完成年度は4年生卒業する年と聞いている。

(山口委員) 達成年度が最終年度とあるのは最終年度だけ評価することか。

(小林行政課長) 最終年度だけである。

(山口委員) 令和8年度の評価は令和9年度にするということか。

(小林行政課長) 令和9年度に評価する。大学の中では完成年度は一般的にどのように捉えているか。

(山口委員) 入学して卒業する時が完成年度。一応確認してほしい。

(小林行政課長) 確認する。

(清水(希)委員) 成果指標を見ると全て良い結果になっているが、この中で一番厳しそうなのはナンバー7の共同研究・受託研究数、評価はまだ先だが、共同研究・受託研究の難しいところは、10年など時間がかかるし教員と企業との相性やタイミングなどの問題もある。そういう中で7件という目標を掲げ、難しいけれども挑戦していくと受け取っている。その一方で1年目、2年目で成果を出しているのが産学連携実習。学生、企業ともに成果が出ており、燕三条リテラシーにつながっている。次に成果が出やすいのはコンサル的な、大学側がこういうことができますというもの。共同研究・受託研究はこういう目標を掲げ頑張っていくんだという位置付けなのかなと感じた。

(山口委員) 卒業研究がある4年生になると企業との共同研究が期待できる。教員が21人で3人に1人が取ってくることを考えると妥当かなと思う。

(清水(善)委員) 工学系の大学ということで、大学院に進学したいという学生が見込まれるし、地元としても大学院卒のニーズがあるのではと思われる。評価項目にはないが大学はどのように考えているか。初年度から大学院はないと思うので、連携している大学に進める道を確保してあげたいと思う。

(小林行政課長) 大学側に聴取し回答する。

(和田委員長) 大学院は教員のモチベーションにもつながる。学生だけでなく教員にとっても教育のやりがいがある。

(清水(善)委員) 学生もそろそろ考え始めると思う。

それから、国際的な関係で、長岡技術科学大学もホーチミン工科大学と連携しているが、短期間でいいので外国の大学で学ぶ機会があると学生に夢を与えることができるのではと考えるが。

(和田委員長) これから他大学との提携が進むと交換留学生などが協定に盛り込まれていくという気がするが、事務局から大学側に伝えてほしい。

以上で意見交換を終了する。

最後に第2回委員会の開催日は8月18日(金)の午後ということで事務局から提案があるがいかがか。

—異議なし—

(山口委員) webであれば出席可能である。

(小林行政課長) 基本対面で開催し、山口委員はwebで出席いただきたい。時間は午後2時開会をお願いします。

(和田委員長) 評価書案の調整は委員長一任でよろしいか。

—異議なし—

(和田委員長) 委員長からは以上となる。

次第5 閉会